

菅平地区振興施設整備について

1 経緯

新生「上田市」の発足を機として、菅平地区では、合併協議に基づいた菅平高原への誘客のために必要な振興施設について、地元自治会らで構成した検討委員会を平成 20 年 1 月に設置し検討を始めました。

その後、平成 21 年 7 月に 2019 年ラグビーワールドカップの日本開催が決定し、平成 25 年 9 月には 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定するなど、国内におけるラグビーをはじめとした各スポーツを取り巻く環境は劇的に変化しています。

平成 25 年 5 月には、市内の観光商工団体や各種スポーツ団体等、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致に賛同する 24 団体で構成する「上田市にラグビーワールドカップ キャンプ地を誘致する会」が設立され、キャンプ地誘致に向けた本格的な活動が進められております。

この間、菅平高原を有する上田市では、この機会をスポーツ合宿地として名高い「菅平高原」を世界に情報発信する大きなチャンスと捉え、ラグビーワールドカップやオリンピック等のキャンプ地誘致をも可能となる振興施設の整備について、地元要望を踏まえた検討を重ねてまいりました。

◎ 主な経過

年	月 日	内 容
平成 17 年	3 月	新市建設計画の地域別整備方針に「既存の観光資源の活用や新たな観光施設の整備に積極的に取り組む」ことが記載
平成 18 年	3 月 6 日	新生「上田市」発足
平成 20 年	1 月 ~ 8 月 4 日	・「菅平振興施設検討委員会」(地元自治会、観光協会、旅館組合、真田地域協議会委員等で組織) : H22 年 1 月までに 7 回の委員会を開催 ・検討委員会から上田市長へ要望書の提出
平成 21 年	7 月	・2019 年ラグビーワールドカップの日本開催が決定
平成 22 年	3 月	・検討委員会で、「菅平高原振興ビジョン」を策定
平成 25 年	5 月 9 月	・「上田市にラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会」が設立 ・2020 年夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催決定

2 菅平高原の現状

菅平高原におけるスポーツ合宿の歴史は、昭和 6 年の法政大学ラグビー合宿から始まり、「ラグビー合宿のメッカ」として 80 年余の歴史と伝統を持ち、ラグビー・サッカー、陸上競技等で年間約 1,500 チームが訪れるスポーツ合宿地として全国に名を馳せてきました。

現在では、グラウンド等の実践的フィールドは 109 面(うち人工芝 21 面)を備えていますが、合宿等に訪れる観光客数は、平成 3 年の 148 万人をピークに減少が続き、近年は 105 万人前後で推移しており、地元及びアスリートからは、更なる施設整備の要望が高い現状です。

○ スポーツ合宿地として菅平高原に求められている施設

《平成 25 年 11 月に、菅平高原で合宿した 893 チームにアンケート調査を実施》

◎ 「運動施設等の要望項目」(アンケート結果)

順位	項目	件数	率	順位	項目	件数	率
1位	人工芝、全天候グラウンド	68件	20%	6位	グラウンドコンディション	18件	5%
2位	屋内運動施設	50件	15%	7位	グラウンドの数・広さ	16件	5%
3位	トイレの数・整備	35件	10%	8位	陸上競技場	15件	4%
4位	ウェイトトレーニング施設	27件	8%	9位	プール (アイシング・リハビリ用)	14件	4%
5位	水道施設、飲み水	20件	6%	10位	雷雨時の避難場所	13件	4%

(回答数 376 件・回収率 42.1%)

3 ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致に求められるもの

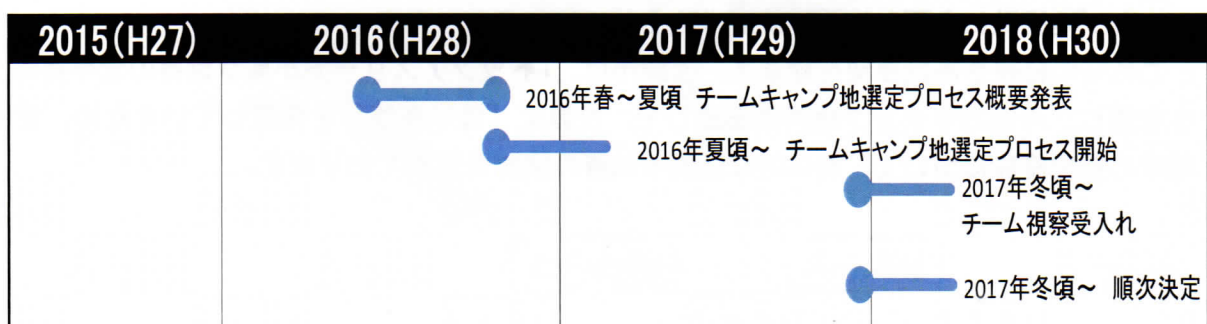
(1) ラグビーワールドカップ日本大会のキャンプ地誘致に向け求められる設備要件

◎ ラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会のキャンプ地応募要項

設備要件	概要	備考
屋外練習場	<ul style="list-style-type: none"> ・天然芝のラグビーピッチ: 1 面 ・スクラム練習スペース (ラグビーピッチとは別) ・ロッカールーム (更衣室) ・医務室、ミーティングルームなどの諸室 	ホテルから各施設への移動時間が少なくとも車で 20 分以内。 各施設間の移動時間は 15 分以内がそれぞれ望ましい。
体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールコート 1 面以上 ・ラインアウトの練習に十分な高さの天井 	
ジム (ウェイトトレーニングルーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーウェイト設備 	
プール	<ul style="list-style-type: none"> ・時間貸切可能な 25m プール (3 レーン以上) 	

※ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会提供

◎ 【参考】 2019 年ラグビーワールドカップキャンプ地選定までのプロセス



(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前トレーニング候補地に向けた応募要項

◎ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会応募要項（基準・推奨事項）

種 目	基 準	推 奨 事 項
陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A A F※ が公認する第 1 種～第 4 種公認陸上競技場 ・ 競技用具、設備は J A A F の陸上競技場公認に関する細則に準拠 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間練習ができる照明設備 ・ 悪天候時に練習が可能な室内練習場 ・ ウェイトトレーニング室、マッサージ及び理学療法室 ・ アイスバス
ラグビー	<ul style="list-style-type: none"> ・ I R B※ の仕様に則ったグラウンド ・ 荒天時や非公開練習を行うための室内練習場 ・ 夜間練習ができる照明設備 ・ ウェイトトレーニング室 ・ リカバリー用のプール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マッサージ及び理学療法室（氷の提供が容易にできること） ・ アイスバス
自転車競技 (ロードレース)	<ul style="list-style-type: none"> ・ U C I※ に沿っている仕様（道路等） ・ 交通量・信号機の少ない車道 ・ 自転車の屋内保管場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェイトトレーニング室 ・ マッサージ及び理学療法室（氷の提供が容易にできること）

※ J A A F : (公財) 日本陸上競技連盟

※ I R B : 国際ラグビー評議会

※ U C I : 国際自転車競技連合

4 施設整備の必要性

菅平高原では、菅平自治会が中心となり、合宿に訪れるスポーツ団体やアスリートから求められている、多様化するトレーニングに対応するための屋内運動場やウェイトトレーニング用のジム、クールダウンルーム等を備えた施設整備について、将来の菅平高原の振興ビジョンを作成し、検討を重ねてきました。

また、今後、国内では、ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ 2021 とメガイイベントが予定されていることから、菅平高原をはじめ、「上田市にラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会」などからも、キャンプ地誘致に必要な施設整備が求められています。

これらの経緯や施設要望を踏まえ、上田市は、「トップアスリートが集う世界の菅平高原」を目指し、今回のキャンプ地誘致を通じて、世界に「菅平高原」を発信していくため、菅平地区の振興施設について、具体的な整備手法等の検討を進めております。

5 当面の施設整備の概要

(1) 建設場所

菅平高原グリーンフィールド（菅平高原国際リゾートセンター西側グラウンド）

(2) 施設概要

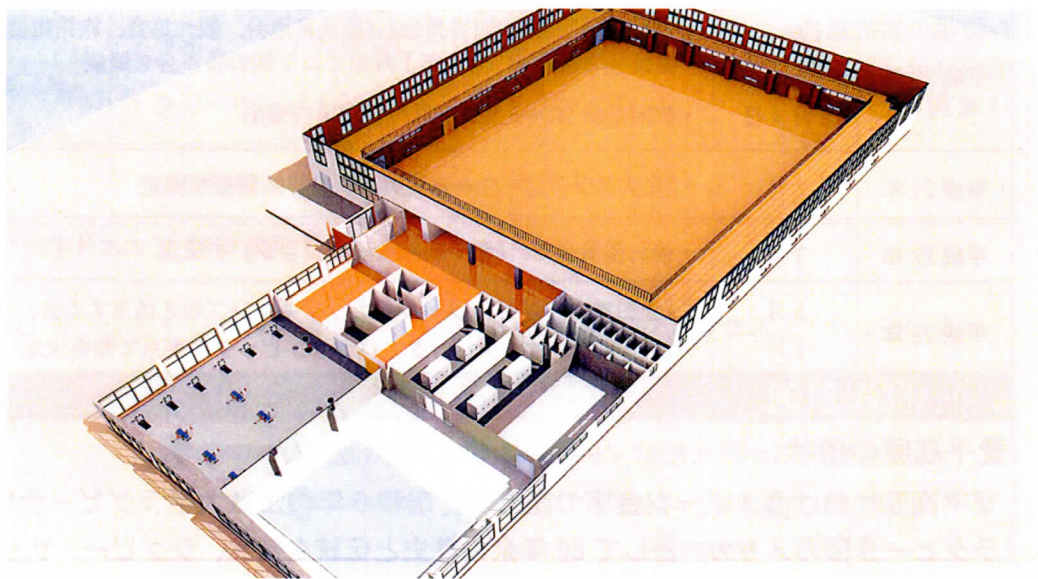
- 屋内運動場（バスケットボールコート1面規模）
- ウェイトトレーニング用ジム・クールダウンルーム：多様化するトレーニングに対応
- 事務室、小会議室、ロッカー室（更衣室）、トイレ等

(3) 事業費 概ね10億円程度

(4) 開設時期 2019年（H31）年4月（予定）

(5) 利用形態

- ・ トップアスリートを迎えることのできる屋内運動施設
- ・ 広く地域住民、市民が利用できる運動施設、講演会及び健康増進施設としての活用
- ・ 観光客がトップアスリートの練習風景を見たり、触れあえる施設
- ・ 各種競技（ラグビー、サッカー、スキー・スノーボード等）大会の開閉会式場
- ・ スポーツと「健康改善」「健康促進」事業を取り入れたスポーツ・セラピーの活動拠点としての活用
- ・ 災害時の防災拠点施設（地域、宿泊客、観光客の避難場所）としての活用



菅平地区振興施設（イメージ図）